

キリスト者共同体 夏の音楽講座

未来から聴く

日時： **8月30日（土）** 15時～19時過ぎ

8月31日（日） 9時過ぎ～13時

於： 大阪集会阿倍野集会所

大阪集会に吉田和彦氏を迎えて初めて行う音楽講座です。

キリスト者共同体の活動の中心にある人間聖化式をともに行う人間の集まりは、地縁・血縁という過去からの流れによって作られる共同体ではありません。未来からの流れによって生まれる新しい共同体とはどういうものなのか？

今を生きる人間の中から響かせる聖歌を通して、より意識的に参列する人間聖化式から、その予感を共有できる機会となれば幸いです。

第一日： 8月30日（土） 15時（14時半受付開始）～19時過ぎまで

自己紹介、発声練習、聖歌練習、レクチャー（20世紀初頭の音楽変遷とルドルフ・シュタイナーの音楽衝動について）、人間聖化式の音楽と聖歌の練習

第二日： 8月31日（日） 9時過ぎ～13時まで

人間聖化式の前に約1時間、人間聖化式の音楽と聖歌の練習

10時半から人間聖化式、その後に質疑応答や意見交換

～講座終了後、お時間ある方は一緒に昼食を～

- ・定員25名（7月31日迄に申込みされた方を優先させていただきます）
- ・申込先（下河辺）: Email：untenneben@yahoo.co.jp 電話：090-4027-1766
- ※ 楽器を持参できる方は、お申込みの際、楽器の種類をお知らせください。
- ・講座参加費 3,000円（ご相談に応じます）
- それ以外の共同体への自由なご寄付も有難くお受けします。

講師からのメッセージ：

『歌う者は祈ることになる』と聖アウグスティヌスも語っているように礼拝において歌うことは昔から常に重要でした。聖歌が鳴り響く時、そこに共同体として祈ることの意味が集約されていると言っても過言ではありません。しかしキリスト者共同体ではそこに留まることなく参列者がひとつの大きな耳となって儀式そのものを聴き、それを音楽的に表現することへの努力が絶えず為されてきました。そこで聴くべきものは過ぎた時代に創造された音楽ではなく、今を生きる私たちに未来から語りかけてくるもの、言わば黙示録の中の144,000人の民にしか聴くことの出来ない新しい歌なのであり、その為に必要不可欠な『未だ聴こえないものを聴こうとする意志』を育むことが私たちの儀式音楽の為の課題なのです。その為のアプローチを折りしも万博が行われている大阪の集会で試みることに少なからず意味があるでしょう。何故ならその努力は如何なる優秀な人工知能であろうとも成し得ることは不可能だからです。

講師プロフィール：

1984年ミュンヘン・オイリュトミー協会の招聘によりピアニストとして渡独。1987年よりキリスト者共同体ミュンヘン中央集会でオルガンを弾き始め1989年に同音楽責任者に任命される。それ以降合唱指導や作曲にも従事する傍ら名匠クラス・シルデの下で研鑽を積む。1993年ロター・ロイプケの誘いを受けキリスト者共同体司祭・音楽家評議会のメンバーに加わる。以降M.チェーホフ演劇学校、シュトゥットガルト司祭養成大学、ミュンヘン教員養成セミナーなどの音楽講師も歴任。2022年秋にドイツで開催されたキリスト者共同体創立100周年世界大会の為に記念聖歌『アーメン』の作曲を委嘱される。2024年8月スイスのサンポー作曲賞受賞。